

「すまい職人きらりアップ体験出前授業」で南部町立南部中学校へ

青森県住宅リフォーム推進協議会と青森県は「青森県すまい職人きらりアップ計画」に基づき、子ども達が、住宅（すまい）ができるまでの過程を知ることやすまいづくりに携わる職人とのふれあいをとおして、職人という仕事に理解を深め、興味や関心を高めることにより、すまい職人を目指すきっかけづくりを行うため、出前授業を実施しています。



昨今はプレカットというコンピュータ制御の機械で木材を切り込むため、墨付け、切込みという作業を見る機会が少なくなりました。今ではあまり見ることはできなくなった継手の加工について、担当職員が「追掛大栓継ぎ」を実演しました。

住まい職人きらりアップ体験出前授業の概要

- ◇実施月日：平成29年7月10日（月）
- ◇南部町立南部中学校 2学年40名（総合的な学習）
- ◇講師：青森県立むつ高等技術専門校（木造建築科）
春日主幹、二本柳技師
- ◇プログラム

〈1時間目〉	①住まいができる過程と住まい職人の紹介
	②職人の仕事と魅力についての講話
〈2時間目〉	③大工道具と使い方、木材の説明
	④講師による木材加工組立ての実演
	⑤児童生徒による木材加工組立ての体験演習
	⑥まとめ

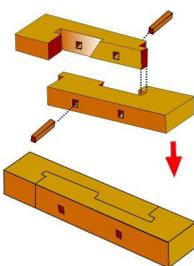


継手

材木の長さを増すため、材を継ぎ足すときに使われる手法です。十分な長さの材木がないときに使われます。

追掛大栓継ぎ（おっかけだいせんつぎ）

土台で多く用いられます。腰掛鎌継ぎよりも加工が複雑な分、強度は高くなります。上木を横からスライドさせてはめ合わせます。



生徒のみなさんから感想や意見をいただきました！

- ・「かな」を実際に使ってみて、最初はちゃんとできたけど途中で細くなって切れる寸前になったりとか、いろいろ難しいことがありました。木材を組み合わせて強度を上げるようにするなど、大工はいろいろな工夫をしながら仕事をしていることが分かりました。
- ・大工の技術は次世代に受け継いでいかなくてはならないものだと思うこと、そしてそれを繋いでいくのは私たちなのということを感じました。今回の授業を通して何か人のためになる仕事に就いて、それを私たちの次の世代へ受け継いでいきたいです。
- ・僕は建築のことについてあまり知らなかったのですが、継手や道具のことなど工夫が様々あることが分かりました。また、かなを使う際に「コツ」が重要だということも分かりました。



最後は全体で記念写真を撮影しました！

今回の出前授業では多くの生徒のみなさんに大工という職業について説明することができました。中でも体験演習で実施したカナ削りは子供たちに好評で、担当講師からノウハウやコツを聞きながら熱心に取り組む姿が見られました。今回の出前授業を受けた子供たちがこれを機に「ものづくり」への興味・関心を深め、技能・技術の大切さに気付いてくれることを期待したいと思います。